

2026 年度 学生コミュニティプロジェクト 学生交流会実施報告

開催日時	2026 年 9 月 16 日（水）、17 日（木）
会場	けいはんなプラザ（京都府）
主催	GPAI 専門家コミュニティ 東京センター

1. 学生コミュニティプロジェクトの概要

学生コミュニティプロジェクトは、東京・パリ・モントリオールの 3 つ GPAI 専門家コミュニティセンターが連携して行う GPAI 関連プロジェクトで、AI と社会の未来を学生の視点から探求する国際的な取組である。東京センターでは、指導教員のもと AI を導入している企業等を対象に学生がインタビュー調査を実施し、AI が労働者や労働環境に与える影響をはじめ、AI の産業・社会への適用事例について分析している。

2. 学生交流会の概要

本交流会は、同プロジェクトに参加する日本の学生を対象とし、①互いに活動内容とメンバーを知ること、②共に AI リテラシーについて考えること（他の学生との議論を通じて、AI を活用する際の問題意識の明確化、課題の抽出、共有すべきルールの考察について取り組み、AI 利用に関する自分自身の行動基準を考え、具体的な 3 つのルールを提示する）を目的として開催された。筑波大学、東洋大学、同志社大学（計 4 つの研究室）の学生 32 名及び指導教員 5 名が参加した。東京センターが本学生交流会を実施するのは昨年に続き 2 回目だが、昨年はオンラインで実施したため、今回が対面での初の交流会実施となった。

3. プログラム概要及び結果

1 日目：研究所視察及び視察振り返り

GPAI 専門家コミュニティ東京センターの原山センター長による開会あいさつの後、国立研究開発法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所（UCRI）、NTT 株式会社コミュニケーション科学基礎研究所（NTT CS 研）及び株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）を視察した。参加学生は、各研究所で AI の社会実装への挑戦や研究開発の模様を視察し、将来 AI の利活用が社会や生活に与える影響、利用の際に注意すべき点などを考え、視察後は視察中にメモした感想や疑問をもとに振り返りを行い、全体で感想等を共有した。

2 日目：グループディスカッション及びインド学生コミュニティとの交流

4 つの参加研究室の各代表学生により研究室の調査・活動内容発表を行った。その後、1 グループ 3 名または 4 名の 8 グループに分かれ、3 つのテーマについてグループディスカッションを実施した。各指導教員は、適宜各グループをまわりディスカッションのサポートを行った。

ディスカッションのテーマ

- ① 「私たちは AI をどう使っているか？」...自分や自分の周囲の AI 利用状況を振り返るとともに、研究室での調査で得られた知見等を共有する。加えて、AI を使いたい／使いたくない場面とその理由を考え、自分の中にある AI 利用の基準を考察する。
- ② 「AI 利用、これでいいの？」...AI を利用して感じた疑問点、AI 利用の際に感じる違和感、望ましくない結果となりそうな利用事例等を共有し、考察する。
- ③ 「AI のスマートユーザーになるには？」...AI のスマートユーザーになるために、議論を通じて自分自身の行動基準を考え、「3 つの AI 利用ルール」をグループで策定する。

学生は、テーマごとに議論の内容を全体に共有し、一連の議論を通じて自らの日常的な AI 利用を振り返るとともに、他の学生の経験や考え方に触れながら、AI の利便性やその利用に伴う課題・留意点について考察した。最終的には、各グループがこの日の議論を踏まえて「3 つの AI 利用ルール」を策定し、自らが AI とどのように関わっていくかを具体的な行動基準として整理した。

さらに、参加学生はインドに拠点を持つ教育関連団体 CEMCA（Commonwealth Educational Media Centre for Asia：アジア・英連邦教育メディアセンター）が立ち上げたインド学生コミュニティとオンラインで交流した。オンライン会議システムの字幕翻訳機能を活用し、日印の学生が 2 グループずつ自分たちの「3 つの AI 利用ルール」について発表することで、AI 利用に関する共通の考えを見いだすとともに、交流前には気づかなかった新たな視点を得た。質疑応答では、「AI を学習の補助として使用することと、依存しすぎることの違い」や、「データ漏洩を防ぐための AI のローカル環境での使用状況」に関する議論があり、異なる文化的背景を持つ学生同士が、AI 利用についての経験や考え方を共有することで、AI との関わり方について国際的な視点からも考える機会となった。

4. 今後の活動

今後、参加学生は個々の調査結果を報告レポートにまとめ、東京センターに提出する。東京センターは、各学生に修了書を発行するとともに、各報告レポートを同センターのホームページに掲載する予定。また、2027 年 3 月に活動報告会を実施し、今年度の日本の学生コミュニティプロジェクト活動を総括するとともに、様々な機会を捉えて本プロジェクトの成果を国内外に広く発信する予定である。

（参考）参加者

学生：32 名（このほか、けが・病欠、就職活動による欠席者の一部はオンライン配信を視聴した。）

筑波大学 3 名、東洋大学 7 名、同志社大学 22 名（計 4 つの研究室）

指導教員：5 名

筑波大学：小西葉子 システム情報系 教授

東洋大学：中野雅史 総合情報学部総合情報学科 教授

同志社大学：勝野宏史 社会学部メディア学科 教授

藤本昌代 社会学部社会学科 教授

兵庫大学：宮崎光世 現代ビジネス学部現代ビジネス学科 教授



原山センター長による開会あいさつ



グループディスカッションの様子



インド学生コミュニティとの
交流セッション



集合写真

(以上)